先生のための夏休み経済教室
『ポスト・コロナの経済教育の進め方』

新教科書の読み方・授業での生かし方

2021年8月13日（金）

同志社大学政策学部　野間敏克

はじめに

・2021年春中学校『公民』新教科書（2017年新指導要領反映）スタート

・新指導要領のポイント確認

・各社の新旧教科書比較

　新指導要領の取り込み等

　　見方・考え方、主体的・対話的で深い学び

　　アクティブラーニング、新ネタの扱い

・新教科書を生かした授業例

　活動型にしにくい分野（金融、労働）に注目して

１．新学習指導要領の確認

（１）改訂の基本方針

①基本的な考え方

「社会に開かれた教育課程」

②育成を目指す資質・能力の明確化

「活きる力」の具体化

③「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進

授業改善（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善）

④各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進

教科横断的な学習、内容や時間のまとまりを見通して行う授業改善

（２）目標

　現代社会の見方・考え方を働かせ，課題を追究したり解決したりする活動を通して，広い視野に立ち，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

三つの柱（評価の三観点）

「知識及び技能」

（1）個人の尊厳と人権の尊重の意義，特に自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識し，民主主義，民主政治の意義，国民の生活の向上と経済活動との関わり，現代の社会生活及び国際関係などについて，個人と社会との関わりを中心に理解を深めるとともに，諸資料から現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

「思考力、判断力、表現力」

（2）社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり，現代社会に見られる課題について公正に判断したりする力，思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。

「学びに向かう力、人間性等」

（3）現代の社会的事象について，現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される，国民主権を担う公民として，自国を愛し，その平和と繁栄を図ることや，各国が相互に主権を尊重し，各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

（３）内容

Ａ（2）現代社会を捉える枠組み
対立と合意，効率と公正などに着目して，課題を追究したり解決したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

Ｂ（1）市場の働きと経済

対立と合意，効率と公正，分業と交換，希少性などに着目して，課題を追究したり解決したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。　［消費、市場、生産、金融、労働］

Ｂ（2）国民の生活と政府の役割
対立と合意，効率と公正，分業と交換，希少性などに着目して，課題を追究したり解決したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。　［社会資本、環境、社会保障、財政］

（４）新教科書比較の視点

・見方・考え方がどう取り込まれているか

　　効率と公正、対立と合意に加え、希少性、分業と交換

・主体的対話的で深い学びをどう実現するか

・新しい話題（ＡＩ等）をどこでどう取り上げるか

・小学校社会科、中学校地理・歴史、高校公共とのつながり

・アクティブにしにくい分野をどう工夫しているか

・デジタル対応

2．教科書各社の本文レイアウトから

・各社とも、教科書の最初、目次のあとに、典型的な本文ページレイアウトを図示

・そこで、教科書の使い方、学習の仕方を、レイアウトに沿って詳しく説明

・旧版にもコーナーやマークの説明はあったが、量は短く、それらを組み合わせて、どう学習に活用するかは見えにくかった

・本文下に地理・歴史や小学校との関連

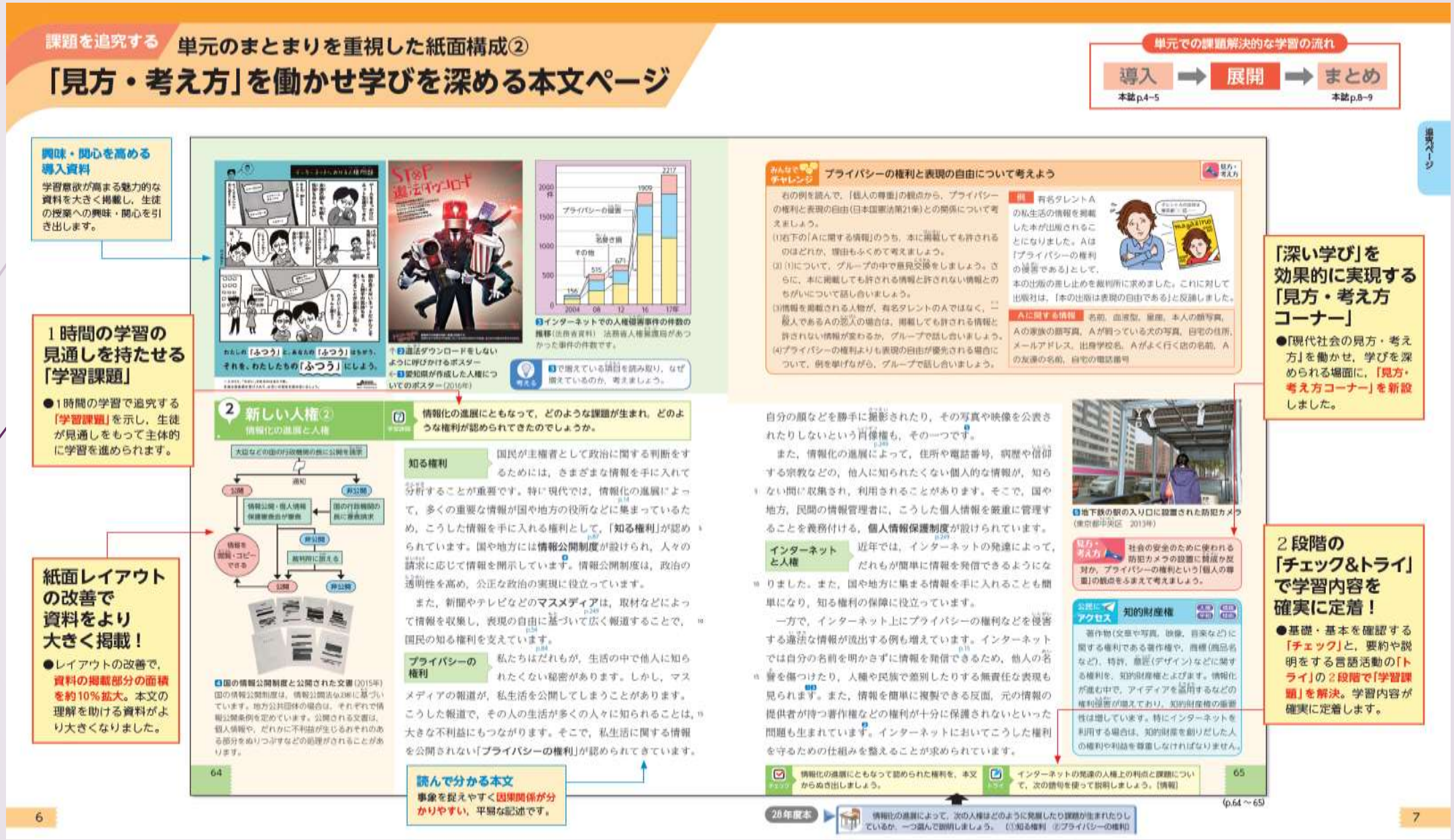
・本文に加えて特設ページの位置づけや使い方も説明

・アクティブページ（見開き内で活動するケース、何回かに一度見開きすべてをアクティブにするケース）

・まとめ振り返りのページ（章全体でまとめや振り返りのケース、何回かに一度まとめや振り返りのケース）

東京書籍

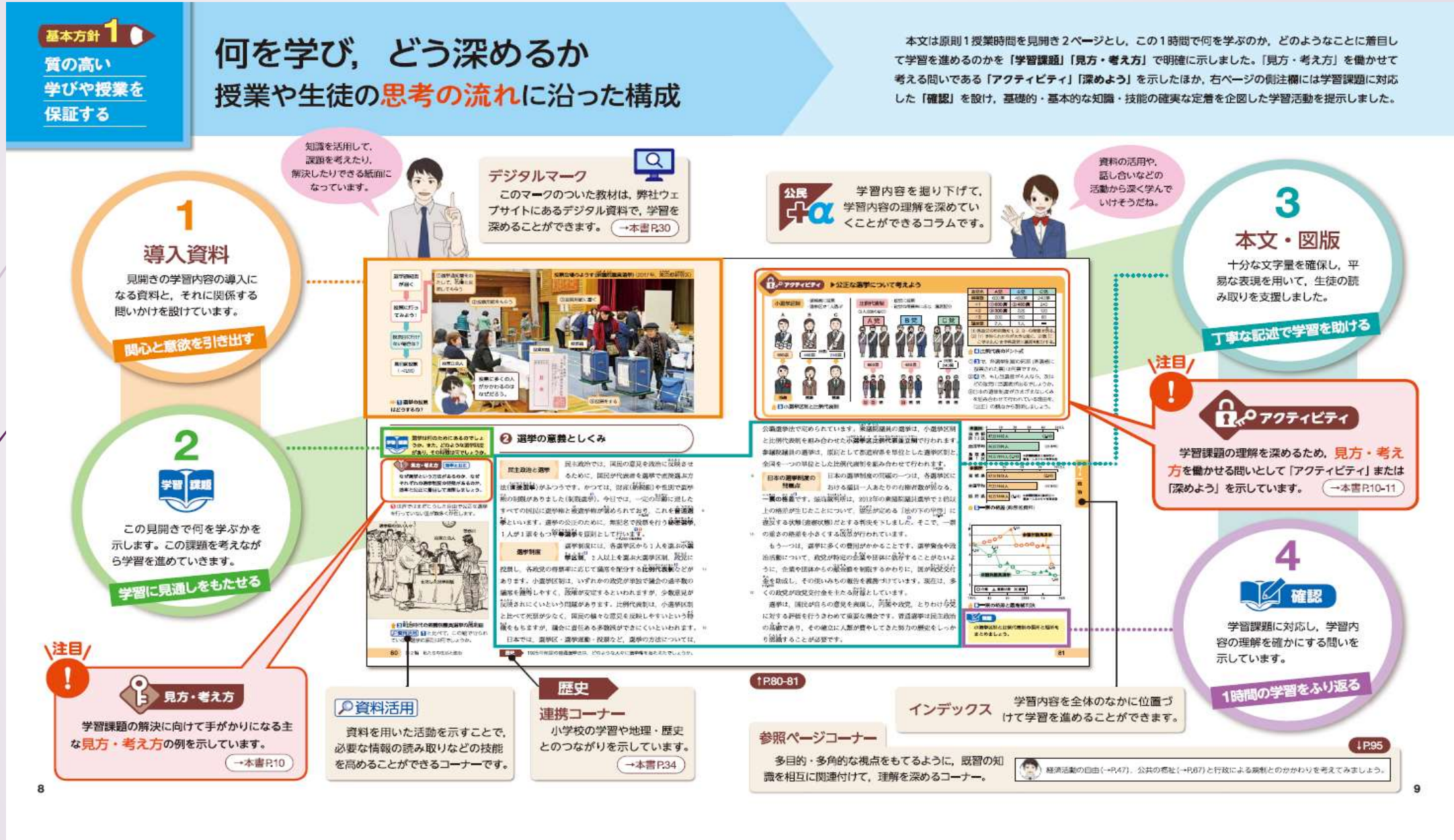
以下、４社のＨＰにある新教科書パンフレット等より、「本文」ページ紹介



帝国書院

特色 3
深い学びにつながる「問い」
見通し・振り返り学習がしやすい構造
見開き単位でも見通し・振り返り学習がしやすい構造になっています。
各見開きの学習を積み重ねて，章を構成する各節の「節の問い」の追究につながります。
章の問い 私たちの社会を豊かにするためには，経済にはどのような働きが求められるのだろうか。
第3節の問い p.127~142
節の問いを振り返ろう
「節の問い」を受けて各節の最後に設置しています。
学んだことを説明する形で振り返ることができます。
第3章第3節を例に
学習課題
「節の問い」に対応した学習課題を設置しています。見開きの学習内容を見通す問いです。
ポイント
節と見開きの関係イメージ
各見開きの「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」でつかんだ学習内容の積み重ねが「節の問い」の追究につながります。
節の問い
節の問いを振り返ろう
確認しよう
学習内容を振り返り，本文の中から学習上大切な事項を書き出す作業です。正しく文章を読む力（読解力）を養い，知識の確実な習得を促します。
説明しよう
学習内容を振り返り，習得した知識を活用して言語活動につなげる問いです。思考力，判断力，表現力の育成を促します。
7 企業の社会的責任
p.141-142
19
20

日本文教出版


基本方針1
質の高い学びや授業を保証する
何を学び，どう深めるか
授業や生徒の思考の流れに沿った構成
本文は原則1授業時間を見開き2ページとし，この1時間で何を学ぶのか，どのようなことに着目して学習を進めるのかを「学習課題」「見方・考え方」で明確に示しました。「見方・考え方」を働かせて考える問いである「アクティビティ」「深めよう」を示したほか，右ページの側注欄には学習課題に対応した「確認」を設け，基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を企図した学習活動を提示しました。
知識を活用して，課題を考えたり，解決したりできる紙面になっています。
デジタルマーク
このマークのついた教材は，弊社ウェブサイトにあるデジタル資料で，学習を深めることができます。
→本書P.30
公民+α
学習内容を掘り下げて，学習内容の理解を深めていくことができるコラムです。
資料の活用や，話し合いなどの活動から深く学んでいけそうだね。
1
導入資料
見開きの学習内容の導入になる資料と，それに関係する問いかけを設けています。
関心と意欲を引き出す
2
学習課題
この見開きで何を学ぶかを示します。この課題を考えながら学習を進めていきます。
学習に見通しをもたせる
3
本文・図版
十分な文字量を確保し，平易な表現を用いて，生徒の読み取りを支援しました。
丁寧な記述で学習を助ける
注目
アクティビティ
学習課題の理解を深めるため，見方・考え方を働かせる問いとして「アクティビティ」または「深めよう」を示しています。
→本書P.10-11
4
確認
学習課題に対応し，学習内容の理解を確かにする問いを示しています。
1時間の学習をふり返る
注目
見方・考え方
学習課題の解決に向けて手がかりになる主な見方・考え方の例を示しています。
→本書P.10
資料活用
資料を用いた活動を示すことで，必要な情報の読み取りなどの技能を高めることができるコーナーです。
歴史
連携コーナー
小学校の学習や地理・歴史とのつながりを示しています。
→本書P.34
↑P.80-81
インデックス
学習内容を全体のなかに位置づけて学習を進めることができます。
参照ページコーナー
多目的・多角的な視点をもてるように，既習の知識を相互に関連付けて，理解を深めるコーナー。
↓P.95
経済活動の自由（→P.47），公共の福祉（→P.67）と行政による規制とのかかわりを考えてみましょう。
8
9

教育出版

特色 1
ともに学ぶ力・深く学ぶ力を育む内容構成の工夫
2 思考・判断・表現する場面を位置づけた，学習の流れがわかりやすいページ構成
見開き2ページ＝1時間の授業展開で学習の見通しを立てやすく，本文と資料のバランスを考えた紙面です。生徒が自ら学べるよう，資料を読み解く手がかりも示しています。
1 1時間の学習を見通す「導入」
生徒の興味・関心を高め，学習のきっかけとなる写真・地図などを導入に位置づけました。
キャラクターの言葉や「LOOK!」は，導入資料をサポートします。
LOOK!
導入資料を解説することで，先生の授業を助け，生徒の自学自習にも役立ちます。
キャラクターの言葉
導入資料の見方のヒントになります。
2 学習課題
学習内容を自分事としてとらえる「学習課題」
タイトルには，学習内容についてイメージを膨らませる主題，学習事項を端的に示した副題を明示しました。
学習課題では，この1時間の授業の見通しをわかりやすく示し，学習意欲を高めます。
資料番号 1，2，3…
本文と資料の関連を番号で示しています。本文を読みながら資料を結びつけることができ，学習が深まります。
3 読んでわかる，授業しやすい「本文」
読みやすく，わかりやすい文章で，生徒の社会的事象への理解を深めます。生徒が「わかる」記述は，授業中はもちろん，自ら学ぼうとする場面でも，基礎・基本の定着にも役立ちます。
4 読み解こう
思考・判断・表現する力を育む「読み解こう」
本文の流れに即し，資料を丁寧に読み解きながら考察する学習を重視しました。写真・地図・グラフなどの多様な資料の読み解きについて，問いを手がかりに取り組むことができ，資料を活用する力が身につきます。
読み解こう
❶一票の格差は，最大で何倍の差があるだろうか。
❷一票の格差があることは，どうして問題なのだろうか。
❸このような格差を解消していくためには，どうしたら良いだろうか。
＊ここでは，3章の「見方・考え方」を活用して考える力の養成にも，役立つ内容になっています。
5 本時の振り返りとして，❷の学習課題と対応させた「確認」と「表現」
この時間で学習したことを基に，「確認」では基礎的な事項の確認と整理，「表現」では社会的事象や課題などに関わる説明や話し合いなどの表現活動と，段階的に振り返りながらまとめることができ，学習が深まります。
確認
本時の学習の中で，重要な語句などに着目しながら，基礎的な事柄をしっかりおさえます。
表現
本時の学習を振り返り，言葉で表現したり，対話したりすることで深い学びにつなげます。
6 学習内容と関連する「SDGsの表示」
＊本資料p.10参照。
7 ページ番号の横に示した「章・学習パート（節）の表示」
いま，どの章の中のどの節の学習をしているのか，学習の現在地を示します。
LOOK!
2016年の衆議院議員選挙から，およそ240万人の18歳と19歳に，初めて選挙権が与えられました。少子高齢化が進む日本の「高齢者中心の選挙」への対抗とともに，これからの時代をつくる若い世代の有権者を増やし，政治への関わりを進めようという政策です。
③ 18歳選挙権と私たち ▶これからの選挙制度
学習課題 ? 選挙にはどのような課題があり，どのように解決が目ざされているのでしょうか。
2018年6月21日より，20歳以上から18歳以上に引き下げられました。
選挙権の拡大
公職選挙法が改正され，2016年から「18歳選挙権」が実現しました。選挙権年齢を20歳以上から18歳以上に引き下げることは，日本では1945年以来の選挙制度の大きな改正となります。アメリカ，イギリス，フランスをはじめ，世界のほとんどの国では，すでに選挙権が18歳以上に引き下げられていましたが，今回の改正はその流れに沿うものです。憲法改正のための国民投票の投票権年齢が18歳以上になったことと合わせ，若い世代の政治参加への道が広がることになりました。
少子高齢化が進む中，若い世代の声を政治に反映させることは大きな課題です。若い世代の人たちが，今後どのように政治的な行動をとっていくのかは，日本の将来にとって重要な意味をもつことになります。
選挙の課題
しかし，18歳選挙権が実現したにもかかわらず，若い世代の投票率はけっして高くありません。10代が初めて参加した2016年の参議院議員選挙では，20代の投票率に比べれば高いものの，全体の投票率の54.7%には及びませんでした。また，全体的に見ても，投票率は長期的に低下しています。
公民の窓 広がる期日前投票制度
移動期日前投票所
大学のキャンパス内の投票所
衆議院議員選挙の投票率でも，同じような結果が示されています。
投票率が低下するのは，政治への関心がもてないことや，関心はあっても投票したいと思う候補者や政党が見つからないことなど，さまざまな理由があります。しかし，投票を棄権することは，自らの大切な権利を放棄するばかりでなく，選挙や議会の決定への信頼性を低下させることにもつながる危険性があります。
一票の格差の問題
また，選挙区によって一票の価値が異なることも，選挙制度の問題点として指摘されています。選挙が国民の意見を正しく反映するためには，一票の価値が平等であることが大切です。ところが現在の日本では，議員一人当たりの有権者数に，およそ2倍の差がある選挙区が存在します。このような「一票の格差」は，解消していく必要があります。一方で，人口が減少する地域の声をどのように国政に反映させるかといった課題も残っています。一人でも多くの国民の声を政治に反映させるために，より良いしくみづくりの模索が続いています。
SDGs ⑪持続可能な都市／⑯平和
◀ p.88~89
1.政治
89
4
特色1 － 2 のポイント：知識・技能／思考・判断・表現
5

３．共通してみられる「新」の特徴

（１）見方・考え方の活用

・旧版では「第1部　現代社会」にとどまっていた「効率と公正」「対立と合意」が「第2部　政治」や「第3部　経済」にも適用されるように

・「分業と交換」「希少性」が「第3部　経済」の本文に入り（帝国は旧版以前から）、言葉の意味と大切な見方であることを説明

・四つの見方・考え方を、いくつかの箇所で、異なる対象に応用

（２）主体的・対話的で深い学びのために

・授業改善につながるか

・すぐ目に付くアクティビティの大幅増加

・「手法」の実践の大幅増加

フリーカード、クラゲチャート、ＸＹ座標、
フィッシュボーン、ウエビングマップ、ピラミッドチャート、
ＫＪ法、ロールプレイング

・本文ページで活動するケース、何回かに一度特設ページでアクティブにするケース（既述）

・それらをどう使えば主体的・対話的で深い学びになるのか

・いくら教科書が資料を充実させ、アクティブラーニングを取り入れても、それをどう授業に生かすのかが問題

・活動や手法の実践に気を取られて、学ばせたいことの本質から離れるのではないか

・アクティブ教材によって主体的、対話的な学習ができたとしても、それが「深い」学びにつながるのかどうかが重要

＊経済教育ネットワーク部会での議論を参考にしています

主体的

生徒自身が、各回の対象を学ぶ意義を見いだし学習課題を把握

→　教師による動機付け（興味・関心）、方向性（見通し）

生徒の積極的取組（課題の理解と考察）、振り返り

対話的

他の生徒、教師、地域、専門家との対話

考えを伝え、意見を聞き、考えを練り上げる

深い

経済の仕組みと働き（知識だけでなく機能や成り立ちを理解）

多面的多角的に　価値判断　見方・考え方の定着と応用

＊広島大学棚橋健治氏の文章（日文教師用指導書）を参考にしています

（３）授業での使いやすさの改善

・見開き左上で関心をもたせ、授業の課題・目的を明確に

・本文の内容を左下、右横の資料読み取りで知識理解

・見開き右上で深める（アクティビティ、資料活用、議論）

・右下で課題の答えが得られたか、目的に到達できたか確認

・最後に身につけた見方・考え方を活用する課題

・節のまとめ、章のまとめにおいても、課題と材料を与えるだけでなく、手を動かし書き込むワークシート方式が増加

・教科書をたどるだけで、ずいぶん書かせる

４．新教科書を授業に生かす例
活動型になじみにくい分野に注目して

2017年「夏休み経済教室」から

ネットワーク部会における授業実践報告（多くは活動型）

報告回数の多いベスト３

企業（生産、経営戦略）財政（税、公共財）市場（需要、供給、価格）

理論・概念が強固　　価値判断基準が比較的単純　　応用幅は広い

少ない分野

金融・貨幣、社会保障、労働

貿易、財政政策・金融政策

（１）新教科書で学ぶ金融

例:帝国書院

第３部 経済＞第３節 企業と経済 ＞ ３ 金融のしくみと働き

導入　アニメ映画「この世界の片隅に」

クラウドファンディングによる資金調達

学習課題　銀行等の金融機関は、私たちの生活においてどのような役割を果たしているのだろうか。

展開　金融、直接金融、間接金融などの説明（図、主な金融機関）

企業、ベンチャー企業への資金供給の必要性（グラフ）

フィンテック、クラウドファンディングなどの新しいしくみ

（家計簿アプリの紹介）

活動　パン屋を起業する資金をどう調達する？

復習　金融機関の主な役割を書き出し

発展的課題　企業の技術革新と金融の関係

直後の特設ページ「ライフプランからお金について考えてみよう」

１　ライフプランを立ててみよう（将来計画書き込み作業）

２　ライフプランを実現するために必要なお金（収入支出グラフ、教育費などの資料の読み込みと将来収支書き込み作業）

３　金融商品とは（知識）

４　金融商品のリスクとリターン（図、グラフ）

５　自分のお金が社会の発展につながることを確認

（各金融商品への配分計画、運用資金がどこに流れるか考察、企業の技術革新に役立つことも理解）

（２）新教科書で学ぶ労働

例：日本文教出版　第3編 私たちの生活と経済 ＞ 2 生産の場としての企業＞ ⑥ 働く意味と労働者を支えるしくみ

導入　アルバイト先でのトラブル（違法か合法か）

学習課題　ひとはなぜ働くのでしょうか。働きやすい職場には何が必要なのでしょうか。

展開　働く意味（アンケートグラフ）
労働契約、労働基準法（説明資料）
労働組合（グラフ）

活動　労働者を保護する仕組みの意義を考えるロールプレイ

復習　労働者の権利を守るしくみを書き出し

特設ページ「職業について調べてみよう」ウェビングマップ
職業選択の自由と責任を考えさせる

５．新しい話題をどこで取り上げたか

	東京書籍	帝国書院	日本文教出版	教育出版
人工知能ＡＩ、フィンテック、ＩｏＴ、ビッグデータ	情報化 流通 金融	情報化 消費　金融 これからの日本経済 社会資本	情報化と防災 消費 流通 企業技術革新	進展する情報社会 社会をつくる 家計 金融
起業、起業などを支える金融などの働き	企業の種類	生活と企業 企業活動 金融	企業競争	生産と企業
企業会計、会計情報の活用		企業の社会的責任	株式会社のしくみ	株式会社（B/S,P/Lも）
社会保障・税番号制度（マイナンバー）		社会保障	税収	

おわりに

- 新教科書は新指導要領を反映
  各所で身につける見方・考え方
  評価の三観点
- 教師にとっての使い勝手の改善
  授業計画、授業展開が見えやすい
- 生徒にとっての使い勝手の改善
  何を身につける授業かを「見える化」
- 問題は、手法を適切に活用しながら本質をつかませること
  いかに深い学びに到達させるか